















赤外線写真









前で宝剣を執る。右足を外にして結跏趺坐する。

②品質構造

帝本像は大変複雑な構造を持ち、修理に立ち会われた伊東史朗氏の報告が現段

階ではもつとも正確なため、同氏の了解のもと記述を転載する。

木造（ヒノキ材）。寄木造り。古色。玉眼。

根幹部の基本的構造を、面部内側（挿図一）から判断すると、頭部は両耳後ろの位置で前後に寄せて、その前方はほぼ正中（若干左寄り）で二材（a・b）を後方はさらにその左寄りで二材（c・d）をいずれも左右に寄せて、都合、前後左右の四材からなる。

一方、像底（挿図二）からの観察によると、頭部前二材（a・b）の延長と思



像底



挿図二（底板を除いてある状態。gの上に付がのるが、写真ではみえない）



挿図一